

第 1 回、第 2 回会議における意見の整理

(目次)

1. 教育方法の変化への対応

- (1) 学習指導要領の改訂 P. 3
- (2) 高校改革（特色を活かした学校づくり） P. 3
- (3) 特別な配慮が必要な生徒等への対応 P. 4

2. 社会状況の変化への対応

- (1) 技術の急速な発展（ICT環境） P. 5
- (2) 地域における学校の役割 P. 6
- (3) 働き方改革 P. 7

3. 施設の機能向上への対応

- (1) 長寿命化 P. 9
- (2) 避難所機能 P. 9

1. 教育方法の変化への対応

平成29年3月に高等学校学習指導要領が改訂され、令和4年度より年次進行で実施予定。知識の理解の質を高め資質・能力をはぐくむ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、「公共」や「理数」の新設、情報教育の充実、障害に応じた指導などが盛り込まれている新学習指導要領の内容や、平成31年4月の中央教育審議会の諮問及び、令和元年5月の教育再生実行会議第十一次提言などを踏まえ、どのような学校施設が求められているか。

<<会議における主な委員意見>>

- ・ 学習の集団や学習形態・方法が多様化する中で、学習空間の枠組みそのものを捉え直す観点もあるのではないか。
- ・ どのような空間が必要か、あるいはふさわしい単位は何かなど、教育の改革とあわせて、それらにふさわしい空間についても考える必要がある。
- ・ 高等学校改革を施設の課題としてどのように捉え直すのか。
- ・ 教え方あるいは学び方と学校・教室空間の関係性については、大きなターニングポイントに来ているのではないか。
- ・ 時間や場所に縛られない個別最適化された学びが議論されている。この場に収まらない観点かもしれないが、通信制など多様な学び方への対応についても忘れてはならない視点。
- ・ 社会が大きく変わる中で、リーディングスクールとなるような新たな考え方を示すという観点と、多数を占める既存の学校をどのようにするのかという観点の両者について考えることが必要なのではないか。
- ・ コミュニケーションがとれる空間を確保すること、コミュニケーションのベースとなる情報共有を学校全体で推進するため、廊下から教室や職員室の中が見えるといったことが求められるのではないか。
- ・ 子どもの学びが多様化することによって、様々な空間が学校の中に作られているが、収納の不足など新たな空間を整備することで生じる課題についても検討していきたい。
- ・ 今よりも生徒が自由に使える設備や空間を充実させる方向に進んでもよいのではないか。
- ・ 学びの場は、学ぶための空間を用意するだけでなく、教員や相談できるスタッフのような学びをフォローする人材がいる場所があることが必要なのではないか。

(1) 学習指導要領の改訂

<<会議における主な委員意見>>

- ・取組をより効果的なものとするよう、学年単位や学級単位でグループ学習やプレゼンテーション等を行うためのICT環境等を整備した多目的かつフレキシブルに活用できる教室の整備が望まれる。
- ・開かれた教育課程を実現するため、地域や小中学生あるいは県外・国外との交流ができる施設・設備の整備や更新が必要。
- ・主体的・対話的な学びを進める上では、生徒と教師の間の交流を促す環境づくりも必要な視点。
- ・図書館がより情報センターとしての機能を持ち、学校の中で重要な役割を担っていく必要があるのではないか。
- ・大学に整備しているアクティブ・ラーニングスペースは、予想外の利用率をあげており、これこそがこれからの学校、学びの場所の一つの姿ではないか。
- ・グループ学習を行う上で、生徒の荷物が机の周りに置かれていると素早く対応できない。荷物の収納スペースの確保は重要な視点。
- ・少しゆとりのある空間をつくっておくことは、授業方法や機器類の変化に柔軟に対応できることにつながると感じた。

(2) 高校改革（特色を生かした学校づくり）

<<会議における主な委員意見>>

- ・各学校の特色を生かした学校づくりを行うことが重要。
- ・広域の地域における高等学校の存在意義を考え直すべき。
- ・学びのニーズが多様化している中で、公立であっても小中学校以上に各校の個性化を図っていくことが重要。
- ・島根県では、県全体で各高校の個別化魅力化を図る取組を進めている。特に学校が拠点となって地域創生にも活かすため、県外からの入学生も積極的に受け入れている。
- ・専門学科、職業教育の充実のため、施設や備品を適切に更新していくことも重要。
- ・高校の存続は、地域の活性化にも大きく関係する事であるため、特色を生かした学校づくりが一層重要になるのではないか

(3) 特別な配慮が必要な生徒等への対応

<<会議における主な委員意見>>

- ・統廃合も進み、生徒の多様化が進んでいる。特別な配慮が必要な生徒への対応や、学力等への幅に応じた習熟度別の授業への対応などについても検討が必要。
- ・特別な配慮を必要とする生徒や日本語を話すことができない生徒等の視点を踏まえた環境整備についても検討が必要。
- ・職員室のバリアフリー化は非常に重要な視点。職員の中にコーディネーターなど多様な人材が存在してくる中で、これらの人たちの居場所についても考えることが必要。島根県立隠岐島前高等学校には職員室内にコーディネーターの席が5つ、外部人材のフリー席が1つ設置されている。
- ・EVや多機能トイレは場所、数ともに適切に整備することが必要。
- ・進路指導室、休憩室の設置においても場所や明るさに留意が必要ではないか。
- ・避難場所も含め、利用する施設の距離や経路（バリアフリー化）について配慮が必要。
- ・小中学校に比べると、高等学校は一般的に特別な支援が必要な生徒が少ないという認識が強いのではないかと感じた。まだ障害のある子を受け入れる高校も多くはない中で、施設面におけるバリアフリー環境整備の重要性については、より丁寧に書き込んでほしい。
- ・施設をソフト面とハード面に分けて考えた場合、ハード面として最低限備えなければならないものを、機能面であげると、バリアフリーと防災への対応だと考えている。
- ・平成30年より高校でも通級による指導が制度化され、現在、数は少ないものの全ての都道府県で通級による生徒を受け入れている学校が出てきた。今後、高等学校の整備指針でも通級による指導に関しての視点が求められてくるのではないか。
- ・インクルーシブ教育への理解が施設面でも進むことは重要。

2. 社会状況の変化への対応

少子化や働き方改革、技術の急速な発展等の社会状況の変化への対応として、どのような学校施設が求められているか。

<<会議における主な委員意見>>

- ・社会が大きく変わる中で、リーディングスクールとなるような新たな考え方を示すという観点と、多数を占める既存の学校をどのようにするのかという観点の両者について考えることが必要なのではないか。（再掲）
- ・多文化共生協働を進めるためには、寮や学校の中における食堂など、学びの中にある暮らしの視点について議論することが必要。
- ・高校施設のダウンサイズあるいは、一層の拠点化を図る視点について考えることが必要。
- ・特に地方都市や農山漁村地域において高校の選択肢が狭まることによる学生寮の重要性が高まるのではないか。空間整備を考える上で、そのような生活側面についても検討していく必要がある。
- ・学校が統廃合されて高校の分布が狭くなると、寮や寄宿舎がないと過疎化に拍車がかかり、地域による教育機会の格差が広がるため、そういう施設や設備の重要性を記載すべきだと思う。

(1) 技術の急速な発展（ICT環境）

<<会議における主な委員意見>>

- ・ICT機器が導入されていく中で、教室空間にとらわれない授業や学習形態なども生まれるなか、教育・学習方法と空間の関係性について議論する必要。
- ・コンピュータベースで行う試験など新しい時代の教育に対して、設備や通信網をどのように整備するのかは、学校現場における課題の一つ。
- ・高校に関しては、小中と同等以上のICT環境の整備をベースに考えることが必要。
- ・取組をより効果的なものとするよう、学年単位や学級単位でグループ学習やプレゼンテーション等を行うためのICT環境等を整備した多目的かつフレキシブルに活用できる教室の整備が望まれる。（再掲）
- ・教師がICT機器を活用した教育ができるようになるための研修環境の整備。
- ・ICT環境整備の方向性については、様々な選択肢があることを指針の中でも示せると良い。
- ・開かれた教育課程を実現するため、地域や小中学生あるいは県外・国外との交流ができる施設・設備の整備や更新が必要。（再掲）

- ・Wi-Fi 整備には、セキュリティを確保しつつ十分な通信速度の確保が望ましい。
- ・LAN ケーブルの破損が多く、有線での設置は課題が多いのではないかな。
- ・これからの時代、情報通信機器の整備は必須であるため、ハード面の整備としては、Wi-Fi 等の通信機器が教室にそろっていることが求められるのではないかな。
- ・教員の業務効率化の面からも ICT 整備の重要性を強く感じた。
- ・教室に整備される ICT のうち、プロジェクターの多くは天井つり下げ型。利便性は高いが、機器の更新が高額になるのが課題。視察事例のひとつに、移動式のプロジェクターをホワイトボードと一体的に使用している学校があり、投影場所を選ばずに双方向のコミュニケーションが行いやすい環境の先端的な事例として感心した。
- ・情報通信機器の進化は日進月歩ゆえ、これからは Wi-Fi の整備など必要最低限の整備で十分になると思う。
- ・これからの時代、個々の特色に合わせた教育は ICT など施設のソフト面で補っていけるようになると思う。例えばプロジェクターに関しても、タブレット端末の普及により必要なくなる可能性もある。それ故に、ICT 対応としては インターネットへのアクセス性をよくすることが非常に重要。

(2) 地域における学校の役割

<<会議における主な委員意見>>

- ・学区が広く、小中とは地域や保護者の関わり方が大きく異なる。社会との連携を進めていく上で、各学校がどのような役割を担うのか明確化することが重要。
- ・高校は公立であっても地域住民に卒業生が多いわけではないことを踏まえ、周辺あるいはより広域の地域における高等学校の存在意義を考え直すべき。
- ・都道府県立の高等学校は、小中学校と異なり、地域の公共施設全体のマネジメントとあわせて整備を検討することが難しく、高校だけで課題を解決しなければならない状況が見られる。
- ・学生寮が増えてきており、高等学校と通学圏や地域との関係性が多様になっている。
- ・地域に開放する部分と開放していない部分がある場合は利用を考えて配置や扉の設置を行う必要がある。
- ・管理棟と教室棟等の棟が分離されている場合、十分な接続が行えている必要がある。
- ・高校の存続は、地域の活性化にも大きく関係する事であるため、特色を生かした学校づくりが一層重要になるのではないかな。 (再掲)

(3) 働き方改革

<<会議における主な委員意見>>

- ・ 教職員スペースの在り方あるいは、教職員スペースを構成する要素についても議論することが必要。
- ・ 職員室のバリアフリー化は非常に重要な視点であり、職員の中にコーディネーターなど多様な人材が存在してくる中で、これらの人たちの居場所についても考えることが必要。 (再掲)
- ・ 職員室にゆとりや休憩室等の整備が必要。
- ・ 科目ごとの教員の連携と、学年ごとの教員の連携の両立ができるのが望ましい。
- ・ 講師がいる場合は講師と教員の連携も視野に入れた施設配置、柔軟に対応できる施設配置が望ましい。
- ・ ペーパーレスも含めて試験問題等の管理が行える空間があることが重要。

3. 施設の機能向上への対応

第二次ベビーブームを受けて大量に建設された学校施設の老朽化や、地震や豪雨等の頻発化、多様化、甚大化する自然災害への対応など、学校施設を取り巻く課題に対し、どのような機能向上が求められているか。

<<会議における主な委員意見>>

- ・ 自立的な学校生活を生徒たちが送るための空間や施設の在り方についても検討課題。
- ・ 中学から高校に上がる過程で成長を感じられるような施設環境といった視点についても議論できると良い。
- ・ 子ども達の生活空間としての温かさ、拠り所など、多様な空間を什器や家具、可動パーティションなどで、整備するといいい。
- ・ 各施設の稼働率が低くならないよう設計や活用ができるのが望ましい。
- ・ 熱中症対策として冷房設備の設置が必要。
- ・ 教科教室型のホームベースの用途と広さを適切にする必要がある。
- ・ 男子生徒が多い学校では、教室の狭さを感じる可能性がある。
- ・ 警備室の位置や数、各棟との距離が適切であるか検討が必要。
- ・ 最近では定時制と全日制で別教室を持つ学校もあるが、公立では時間を分けて教室を共用している学校も多いと思う。使いやすさの面で、建物面からも配慮が必要。
- ・ 子供たち一人あたりのスペースを十分に確保することや、ゆったりとした気持ちの良い屋外環境を子供たちの目の届く場所に整備することは、子供たちの力を伸ばしていくためにハードとして求められる要素ではないか。
- ・ 隠岐島前高等学校の事例にあったような半官半民の公営塾や横浜サイエンスフロンティア高等学校のような PFI 事業での施設整備など民間活力の活用や県と市町村の協働といった学校施設整備・運営もこれからの視点として重要。
- ・ 子供たちに提供したい学びの環境を施設面から考え、新たに整備を行うことは理想的だが、公立の高等学校においては、既存の施設における空き教室の活用方法や改修によって新しい学びの場をつくる事例のような情報も非常に有益。

(1) 長寿命化

<<会議における主な委員意見>>

- ・ 老朽化が進行している学校では、修理や更新を行うことで手一杯という状況もあるため、それらの抜本的な解決方法を考える必要がある。
- ・ 専門学科、職業教育の充実として、施設や備品を適切に更新していくことも重要である。（再掲）
- ・ 多くの高校で施設の老朽化が進んでおり、その長寿命化に取り組む中で、限られた予算を有効に活用して、効果的な教育・学習が行えるよう工夫していく必要がある。
- ・ 耐久素材や耐汚素材の使用等メンテナンス頻度を削減できる材料の使用を検討するとよい。
- ・ LAN ケーブルの破損が多く、有線での設置は課題が多いのではないか。（再掲）
- ・ 今後の学校づくりにおいては、将来の学校以外への転用を念頭におき、施設にフレキシビリティを持たせる、つまり汎用性を高めることが大切ではないか。
- ・ 大多数の公立高校は老朽化が課題であり、限りある財源の中で、これからの学びを行うために最低限必要となる設備や空間について議論していく視点も必要だと思う。

(2) 避難所機能

<<会議における主な委員意見>>

- ・ 戦略的に防災部局と連携していく視点も必要。
- ・ 防災や安全、コミュニティスクールとしての環境整備の観点も重要。
- ・ 生徒の安全確保計画の部分を強化していくことが必要。
- ・ 津波対策や河川氾濫対策、その場合の広い地域との連携等の検討も必要。
- ・ 避難場所も含め、利用する施設の距離や経路（バリアフリー化）について配慮が必要。（再掲）
- ・ 施設をソフト面とハード面に分けて考えた場合、ハード面として最低限備えなければならないものを、機能面であげると、バリアフリーと防災への対応だと考えている。（再掲）